

法政大学大学院経営学研究科

# 法政ビジネススクール

—経営学専攻夜間コース—

2013

法政大学 大学院  
HOSEI UNIV. GRADUATE SCHOOL

- 企業家養成コース
- 国際経営コース
- 人材・組織マネジメントコース
- マーケティングコース
- アカウンティング・ファイナンスコース



## MBAは誰でも取得できるのか!?

法政大学大学院経営学研究科長  
竹内 淑恵

今、このパンフレットを手を取っているあなたは、何を考えていますか。  
「大学院への進学を迷っている」  
「どこの大学院を選択しようか、思案中である」  
「ついて行けるかどうか不安だ」  
「仕事と勉強を両立できるか心配だ」といったことでしょうか。

進学しようかどうかを迷っているという問題認識の段階にいれば、その迷いは捨て、どこを選択するのかという代替案の検討段階に入ってください。誤解を恐れずにいえば、MBAは誰でも取得できます。最初にすべきことは情報収集です。

法政ビジネススクール(経営学専攻・夜間修士課程、通称HBS)は、1992年4月にスタートし、満20年を迎えた社会人大学院の草分け的存在です。社会人が仕事を続けながら、高度職業人として各人の専門領域における職務知識・能力、マネジメント能力を向上させることを、一貫して目指してきました。企業家養成、国際経営、人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスの5コースがありますが、それぞれの紹介は次ページ以降に譲り、以下では共通した特徴を説明します。

1つ目の特徴は、通常1年次に取りの授業科目として、所属コースの専門科目はもとより、他コースの授業も取れること、経営学、会計学、統計学、経済学などの基礎科目が配置されており、初めて専門科目を履修する場合でも理解できるよう、工夫されている点が挙げられます。ついて行けるか否かを不安に感じる必要はありません。

2つ目の特徴は、ワークショップです。基礎科目や専門科目など幅広い理論や知識を習得するだけでなく、企業経営の最先端の動向や実践的なスキルも身につけたい、活発な意見交換を通じて異業種交流したいというニーズもあるでしょう。ワークショップはそれに応えてくれる科目です。詳細は各コースの説明を参照してください。

3つ目の特徴は、修士論文の執筆です。学位論文が要求されない場合もあるのに、なぜ修論が必須なのでしょう。実は、それがビジネスにおける意思決定能力やマネジメント能力を向上させる極めて有効な方法だからです。セオドア・レビットは、「マーケティング近視眼」という論文

の中で、「鉄道会社は、自社の事業を鉄道事業ではなく、輸送事業と捉えていけば、自動車や航空機の台頭によって衰退しなかった」と指摘しています。マーケティング活動が近視眼になってはいけないうに、あなたも日々の業務に追われる中で近視眼に陥ってはいけないうです。業務に密接したテーマを、理論面から深く洞察する、あるいは広く俯瞰するために、修論は絶好の機会です。あなたの持つ、実務家としての切実で鋭い問題意識や経験の中で培われた暗黙知は、HBSで学ぶ理論、分析手法、先行研究への理解と相まって、学術的に優れた、独自性の高い研究成果として結実します。それはこの20年間の諸先輩方の実績が証明しています。

我々教員は理論を教える立場ですが、学生の皆さんを研究のパートナーだと思っています。だからゼミは少人数制です。企業の業績は投下した資本に対する収益性で評価されますが、これまで効率性が追求されず、例えば「TV広告はお金がかかる」という慣例に従って投資が行われてきたマーケティング分野でも、マーケティングROIという概念が提唱されています。入学金や授業料などの自分への投資も同じです。あなたの努力ときめ細かいゼミ指導によって優れた修論を完成できれば、学会発表や学術誌への投稿も可能です。「ビジネススクールROI」という言葉は世の中にありませんが、投資対効果という面で見ても、HBSはベストな選択肢といえるでしょう。

仕事と勉強の両立は、あなた次第です。やる気や真摯な態度によって、勤務先の上司や同僚、部下の協力や理解も得られます。なによりも一緒に学ぶ仲間との連帯感が生まれ、励みにもなります。MBA取得以上に、同期や先輩・後輩とのネットワークが生涯の宝になったという声もあります。設立以来、700名を超える社会人の方々がMBAを取得し、修了していることがなよりの証です。

あなたもMBAを取得できます。我々教員も一人ひとりに対する教育・指導への努力を惜しみません。HBSに興味を持ち、入学してみたいと思っているあなたと、一緒に新しい理論を勉強し、研究のパートナーとして、魅力あるテーマに取り組む日が来ることを切望しています。







吉田 健二 教授

## 企業家養成のために、多様なカリキュラムを提供

企業家養成コースは、ベンチャー・ビジネス論の泰斗である清成忠男元法政大学総長のリーダーシップによって1992年に開講され、現在21年目を迎えています。本コースは、企業家として独立を志す人、既存企業の内部において新規事業を立ち上げようとする人、あるいは

既存企業の後継経営者を志す人を対象にして、新規事業を起し、それをマネジメントしていくいわゆる企業家を養成することを目的としています。このようなコースは、わが国において初めてのものであり、文字通り企業家養成のイノベーターだと言えます。

企業家を養成するためには、リスクの大きい新規事業のマネジメントについてのスキルを習得するべく、企業家としての心構えを理解させるほか、オールラウンドに様々な専門知識を関連づけて身につけさせることが必要不可欠です。企業家養成コースにおいては、企業家活動、企業家史、経営戦略論、ベンチャー・ファイナンス論、ベンチャー・キャピタリスト論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論などの科目が設定されています。これらの他に、マーケティング論、組織行動論、人的資源管理論、経営組織論、財務会計論、管理会計論、経営情報論、国際経営論など多様な科目が、他のコースにおいて履修できる仕組みになっています。さらに、経営学基礎、会計学基礎、ファイナンス入門、経済学基礎など、いわゆる

基礎を学ぶ科目も、学生の要望に基づいて設けられています。

企業家養成コースの大きな特徴として、「ワークショップ」という新しい形式の授業が取り入れられています。これは、毎回の授業時に企業家や特定分野の専門家を招いて、企業や事業を起こされた経緯や動機とそのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについて講義をお願いするものです。今年度は「企業家の現実」というテーマを設け、学生が積極的に質問して企業家の生の声を聞き出すようにしています。学生は2年間の在学中に20名程度の企業家の話を聞くことになるので、ワークショップから受ける刺激はとて大きなものになります。私自身も、毎回経営全般についていろいろと考えさせられます。

学生は年齢、職種、業種に関して様々です。毎年、多様な経歴の社会人が企業家養成コースに集まります。授業を離れてもいろいろな交流を通じて繋がるネットワークは、卒業後も大切な財産となるでしょう。



### ●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
稲垣 京輔 教授	起業家間の関係構築と地域コンテキストの再構成プロセスに関する研究	企業家活動、ワークショップ、企業家養成演習
宇田川 勝 教授	財閥・自動車産業史、企業家活動	企業家史、企業家養成演習
金 容度 教授	日本経営史、日本経営論	企業間関係論、ワークショップ、企業家養成演習
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	イノベーション・マネジメント概論、ワークショップ、企業家養成演習
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	経営学基礎、ワークショップ、企業家養成演習
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	経営戦略論、企業家養成演習

### ●MBA修了生・現役生の声

## 決断力を鍛えて、一生の企業家なかまを作る

私はeマーケットプレイス（インターネット上の企業間取引市場）を主事業とする会社を経営しております。会社の成長に伴って、意思決定の範囲が広がり、意思決定のプロセスも複雑化する中で、それまでの「経験と感覚での経営」から脱皮し、経営理論をより体系的に学びたいと考え、私はHBSの企業家養成コースに飛び込みました。

HBSに在籍した2年間で、私は数多くの貴重な経験をりましたが、特に、ここでは二つのことを挙げたいと思います。ひとつは、企業家養成コースで繰り返し学んだ意思決定の方法についてです。企業家は企業の理念とビジョンを組織に浸透させ、実行に移さなければなりません。さらに、こうした企業理念とビジョンに基づき、限られた時間の中で意思決定しなければなりません。企業家養成コースでは、知識やフレームワークの習得はもちろんのこと、ケースメソッドの授業、グループワークとディスカッション、修士論文の作成など、様々な学習方

山田 成徳 (2011年3月修了)  
株式会社バリュー・クエスト 代表取締役社長



法が設けられており、限られた時間で情報を整理・分析し正しい判断を下す方法を体系的に学ぶことができました。

もうひとつの貴重な経験は、「同志」との出会いです。企業家養成コースには、広い意味での企業家を志して、ビジネスの第一線で活躍する多様な人たちが集まります。その仲間たちと切磋琢磨しながら共に成長し、生涯にわたる同志としての関係を築くことができます。そのネットワークは、起業やビジネスアライアンスに直結することもあります。

経営は不確実性との戦いとも言えます。私は在学中に経営理論を学び、仲間とディスカッションし、それを即座に実践していきました。HBSでの経験は、経営環境の不確実性が増大する中で企業を永続させるために、終生学び続けなければならないということを実感させてくれた、未来への第一歩であったと感じています。



安藤 直紀 教授

## グローバル化が進むなかでの企業経営を考える

国際経営コースは、「人材、マーケティング、会計など他分野の“国際的側面”を研究するコース」という設置コンセプトをイメージして作りあげられました。コースの設置以来、幅広い分野で活躍する修了生を輩出してきましたが、そのなかで、当コースでの研究を土台として海外現法などに赴任し、グローバルに活躍する修了生が多数出てくるようになりました。修了した後もOB/OG組織「HIB Club」を通して情報交換がなされ、修了生同士の結びつきは広がりを見せています。

企業を取り巻く環境は、当コースが設置された当時とは大きく変化しています。そのうちの1つが、経済のグローバル化です。ヒト・モノ・カネそして情報が国境という壁を越えて自由に移動するようになりました。グローバル化の進展により、規模や業種にかかわらず、今や海外との結びつきに無縁でいられる企業はないと言ってもよいでしょう。この意味で、国際経営を学ぶ重要性はますます高まりつつあると言えます。個人のレベルでもグローバル化の影響を避けることはできないでしょう。人材の移動がより活発になり、様々な国の人たちと仕事をしていくことが普通になっていくかもしれません。企業経営に関する知識を身につけることはもちろんのこと、それをベースにグローバルに活躍するための能力を養っていく必要があるでしょう。当コースで学ぶ国際経営の理論と皆

さんの実務経験が融合されることで、グローバル・マネージャーとしての能力を養っていただけるのではないのでしょうか。

大学院教育は、それがアカデミック志向なものであれビジネス志向のものであれ、学部教育のような「教員＝教える人、学生＝教えられる人」といった単線的な関係であってはならないと思います。ビジネススクールの教育のあり方は、当然これとは異なります。当コースで実践されている大学院教育を、「自動車の開発技術者とテストドライバーの関係性」に例えて理解すると分かりやすいでしょう。抽象的な理論に詳しい「開発技術者」つまり当コースでいう教授陣と、実際の現場で五感を研ぎ澄ませながら問題を解決していく「ドライバー」つまり社会人院生との双方向のコミュニケーションが、理論と実務経験の融合をより高次元のものへと高めていくのではないのでしょうか。



### ● 教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
安藤 直紀 教授	海外子会社の経営戦略、新興経済での経営戦略	国際経営論、国際経営演習
藤澤 利治 教授	EU 経済統合に関する研究、統一ドイツ経済の分析	地域経済研究 [EU]、国際経営演習、ワークショップ
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資	国際経営論、国際経営演習
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究	国際金融論、国際経営演習
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略	国際物流論、国際経営演習
高橋 理香 准教授	貿易政策の効果に関する理論および実証研究	国際経営演習、ワークショップ

### ● MBA修了生・現役生の声

## 大学院生活と自身のキャリアディベロプメントへの活かし方

齋藤 優介 (2012年3月修了)  
日本オーチス・エレベータ株式会社勤務



私は、システムエンジニアとして社会人をスタートさせ、会計システムの開発に携わったことをきっかけとして会計に興味を持つようになり、職種を経理職へ変更し現在に至ります。意識的にIT、会計と2つの業務領域を深めていくことを通じて、経験・知識・スキルを増やしてきましたが、ITも会計も企業経営の中の1分野であるため、学んだ分野を見直す意味でも経営学を学んでみたいという思いが強くなり、大学院へ通うことに決めました。また、外資系メーカーに勤めているので、働く場所が日本でなくても活躍できるような人材を目指したいと考え、いくつかあるコースの中で国際経営コースを選択することにしました。

久しぶりの大学生活は動きながらのチャレンジであったので、1年目で卒業に必要な授業単位を全て取得し、2年目は修士論文の執筆作業に集中する戦略をたてることで、無事2年間で卒業することができました。これも丁寧にご指導くださった先生方や、励ましあえる同期の存在が大きかったと感じております。

大学院の授業の中で実務家として活躍されている方のお話を聞くことができるワークショップは、仕事の躍動感を感じることができるのと、数人でチームとなり共同作業を通してプレゼンテーションを発表する機会もあり、学生同士の結びつきを強くすることができたので、楽しく有意義な時間であったと感じております。

大学院を卒業するのとほぼ同時期に主要部門へ異動することが決まったので、今後は大学院で学んだ経営学を活かし、会社の経営を踏まえた上で業務にあたっていきたいと考えております。大学院で学ぶ経営学の成果は、即効性のある資格やスキルとは違い、長い期間の中でリターンのある投資となると思うので、これから進学を考えている方は、それを考慮の上でご自身のキャリア構築に組み入れることができれば、有意義な大学院生活を過ごすことができると思います。





佐野 嘉秀 准教授

## 人材と組織の課題について考える人のために

人材と組織のマネジメントは、戦略やマーケティング、ファイナンスなどと並び、欧米をはじめとするビジネススクール(MBA)のカリキュラムの柱です。人材と組織のマネジメントに関わる実務上の課題の多くは、組織のふるまいと個人の意識や行動とのあいだの緊張

関係のなかにあります。わたしたちの人材・組織マネジメントコースは、そうした課題の解決策を、事実にもとづく議論と理論的な考察をつうじて見いだそうとする人のためのコースでありたいと考えています。人事担当者だけでなく、職場マネージャーや第一線で働く社会人として、人材と組織の課題について考える人たちが、わたしたちのコースで学んでいます。

人材・組織マネジメントコースでは、人材(Human Resources)と組織(Organization)とを真正面にすえて、この分野の研究の専門家を専任教員として多く配しています。この点は、国内MBAコースであまり例がないと考えます。教員の学問的バックグラウンドは、経営学、経済学、社会学、心理学と様々です。このことは、皆さんが、幅広い視点から人材と組織の管理について考える理論的な知識や思考を学びとるのに役立つはずで、実務経験をもつ教員も多く、みな実証的な調査研究をつうじて実務に関わっています。

本コースのもうひとつの特徴は、修士論文指導を個別に行うだけでな

く、コースの教員全員が協力して、論文構想発表会や合宿形式による論文中間発表会、最終的な論文指導を行い、多様な見地から丹念に指導にあたることにあります。毎年、コースの社会人大学院生の皆さんが、修士論文の執筆に真剣に向き合っています。その成果として多数の優れた論文が生まれおり、その一部は『プロフェッショナルの人材開発』『女性の人材開発』『雇用形態の多様化と人材開発』(キャリア研究選書、ナカニシヤ出版)などとして出版されています。

もちろん、本コースでは、教員が一方的に教えるというわけではありません。皆さんが大学院で学び、修士論文を作成するプロセスは、自ら実践的な研究課題をみつけるところから始まります。研究課題に照らし、過去の研究の蓄積を吟味し、情報収集と理論的考察を行い、具体的かつ普遍性のある答えを見出していきます。わたしたち教員は、それをきめ細かくサポートしていきます。このような本コースでの経験は、皆さんの組織における実践とキャリアにきっと活かせるはずです。



### ●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析・国際比較	人事制度論、人材・組織マネジメント演習、ワークショップ
川喜多 喬 教授	職業事情、キャリア形成、人材育成	※特定科目の担当はありません
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	経営情報論、人材・組織マネジメント演習
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	労働市場論、人材・組織マネジメント演習
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィ	経営組織論、人材・組織マネジメント演習
西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	組織行動論、人材・組織マネジメント演習
小川 憲彦 准教授	組織社会化、組織文化、採用活動	キャリア・マネジメント論、人材・組織マネジメント演習
佐野 嘉秀 准教授	人材マネジメント、雇用ポートフォリオ	人的資源管理論、人材・組織マネジメント演習

### ●MBA修了生・現役生の声

## クラスメートの多様性と学生間のコミュニケーションが魅力

鎗内 美奈 (2009年3月修了)

独立行政法人 国際協力機構(JICA)特別嘱託(在ベトナム)



私が社会人大学院に興味を持ったのは、途上国で人材育成のための技術移転を経験し、今後同様の現場で仕事を続けていきたいと考えたためです。幅広い視点で、途上国の人材開発に関する問題の解決法を提案できるようになるためには、現場の経験の積み重ねだけではなく、理論や幅広い実践などを身につけることが必要ではないかと考え、人材と組織を専門とするHBSの本コースの受験を決めました。

HBSで最も刺激を受けた点は、クラスメートの多様性です。人材や組織は、業種や業態に関わらず重要な課題です。このため、他の専攻やコースからの学生も含め、様々なバックグラウンドを持った学生が、授業に出席しています。授業は、理論やケースの紹介だけでなく、社会人である各学生が抱える、人材や組織に関する課題を、ケースとして学生間で共有し議論することが多く、理論を、実際の事象に当てはめて、考えたり分析したりする実践的な形態となっていま

す。多様な背景を持つ学生が自らのケースを発表するため、広範な業種に渡ると共に、議論の際の意見や視点も多様で、考え方の幅を広げるよい機会となりました。さらに、授業の内外での先生方も含めた学生間でのコミュニケーションは、他に得がたいHBSの大きな魅力であり、貴重な議論の機会だったと思います。

実際に、仕事と両立させて、課題や授業準備、特に2年時の修士論文のための研究を進めることは、時間管理の点からも大変ではありましたが、人材や組織に関する専門的な分野についてだけではなく、修士論文の作成や授業でのディスカッションを通して、論理的な思考や事象の分析といったスキルについても身につけることができ、非常に中身の濃い、充実した2年間だったと感じています。

# マーケティングコース



西川 英彦 教授

## マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースは、実務での豊かな経験を持ちながらも、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」での多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、研究課題を磨いていきます。このことが、今までにない面白い研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。そういうと難しいそうですが、「あれ、この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめてみたら、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行います。それを受けて、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となる予定です。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん自

身の努力も必要ですが、講義での多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができるからです。さらには2年次の先輩や卒業生も多くのアドバイスをしてくれます。これらの体制が円滑に進むように、1年次のオリエンテーションの後に、先輩や卒業生が歓迎会をすることが恒例となっています。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのない友人づくりにつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を実際に作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。

皆さんの新しい研究課題に出会えることは、教員にとってもとても楽しみです。皆さんと一緒にマーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



### ●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
木村 純子 教授	消費文化論	サービス・マネジメント論、マーケティング演習
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	マーケティング論、マーケティング演習、ワークショップ
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	製品開発論、マーケティング演習、ワークショップ
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	消費者行動論、マーケティング演習
西川 英彦 教授	インターネット・マーケティング、ユーザー・イノベーション	マーケティング・リサーチ論、マーケティング演習、ワークショップ
矢作 敏行 教授	流通イノベーション、小売国際化プロセス、流通史、マーケティング理論	流通システム論、マーケティング演習

### ●MBA修了生・現役生の声

## 独学の壁を超える、密度の濃い日々

小南 陽子 (現役生 修士2年)  
証券会社勤務



私は法政大学国際文化学部を卒業した後、証券会社に就職し、営業企画に携わっています。業務上の必要があり、統計学やマーケティングを独学していましたが、独学には限界があると思うようになりました。そこで、実務にも精通した教授陣からマーケティングを体系的に学び、他の学生との議論を通じてさらに理解を深めたいと考えるに至りました。

他校に比べ、HBSは学費が驚くほど良心的ですので、経済的な不安はありませんでした。ただ、社会人である為、「働きながら2年間も通えるのか」などの不安がありました。そのような折、HBS卒業生に相談したところ、「HBSなら単に講義を受けるだけでなく、修士論文という形で自分の考えを世に問うことができるから、本当の意味での知識が身につく。さらに苦楽を共にする仲間もできるし、現役生と卒業生のつながりも強い。大変だけれど、HBSにはそれだけの価値がある」と、背中を押してもらいました。

HBSには修士論文のような高度にアカデミックな面がある一方で、フィールドワークで実際に自分の目で見て考えるといった、より実地に近い授業もあります。ワークショップでは、多様な企業・業界の方から普段聞くことのできないようなお話を伺う機会も得られます。また、予習の時点では自分の考えに落とし穴があることに気づかないものですが、授業で先生やクラスメイトと議論をしてみると、いかに自分の考えが浅かったのかを思い知らされることもあります。全て独学では成し得なかったことです。

私はHBSに入学し、「人生が2倍になった」と感じています。まるで2人分の人生を生きているかのような、密度の濃い日々を送っています。皆様もぜひ、HBSと一緒に学んでみませんか。



# アカウンティング・ファイナンスコース

## アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制



福田 淳児 教授

HBSアカウンティング・ファイナンスコースの特徴は、多様な研究領域の教授陣が揃っている点です。「会計とファイナンス」という大きな枠組みの中に、財務会計論、管理会計論、監査論、税務会計論、経営分析、インベ

ストメント理論、財務戦略論、企業評価論といった多様な専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気のなかで進められ、質疑応答などがきめ細やかに行われます。大学院では、理論的な説明ばかりではなく、講義の1つであるワークショップでは他の企業の実務に触れる機会も提供しています。

2年次に行われる修士論文の指導は、それぞれの社会人院生が、自らの問題関心に最も近い教員のもとでマンツーマンで論文を仕上げしていきます。さらに、関連した研究領域の教員、また研究方法でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

大学院での学習において、社会人院生の方に期待したいのは、大学院で学習する理論と皆さんの実社会での経験を常に比較して考えていただきたいということです。私自身は企業で働いた経験はありませんので、社会人院生の方から聞く現場の生々しい様子を、いつも大変興味深く聞いています。実務の現場を知らないために、論文で議論されていることが現

実の企業の中でどのように運用されているのかを必ずしも十分に理解できないこともあります。こんな時、実務の現場を知っている社会人院生の方は大きなアドバンテージを持っているはずです。

その一方で、社会人院生の方に学習を進める上で気をつけていただきたいこともあります。理論を学んでいる時に、自社の状況だけを考え、「実際の現場ではそのようなことはありえない。」という考えを持ってしまふことです。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出したり、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。理論でいわれていることと実務を常に比較し考えていくことで、理論のいっそう深い理解を可能とすることもあります。また、理論と実務とのギャップの認識をきっかけとして、思わぬ発見があり、そこから新しい理論が生まれる可能性もあります。そういう一連の過程を皆さんと一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていきたいと思っています。

みんなで一緒に研究しましょう！



### ●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
大下 勇二 教授	フランス会計制度研究	税務会計論
神谷 健司 教授	会計基準の国際比較の研究、会計教育プログラムの研究	アカウンティング・ファイナンス演習
菊谷 正人 教授 <small>(イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻)</small>	国際会計論、税務会計、租税法	国際会計論
岸本 直樹 教授	住宅ローンの繰上償還、MBSの価格モデル	ファイナンス入門、アカウンティング・ファイナンス演習
金 瑠晋 教授	金融資産価格付け、企業財務	財務戦略論、基礎ファイナンスII、アカウンティング・ファイナンス演習
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究	財務会計論
筒井 知彦 教授	利益計算とディスクロージャー、会計基準の国際的調和	アカウンティング・ファイナンス演習
福田 淳児 教授	組織学習を促進する管理会計システム的设计	ワークショップ、アカウンティング・ファイナンス演習
福多 裕志 教授	大規模財務データの動態的局面を視覚的に解明すること	経営分析
八重倉 孝 教授	業績報告、会計情報による企業評価などに関する実証研究	企業評価論
川島 健司 准教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、財務報告におけるグラフの利用に関する分析	ワークショップ
山崎 輝 准教授	金融工学、数理ファイナンス	基礎ファイナンスI

### ●MBA修了生・現役生の声

#### 抛り所となる基礎を築く場所

大学院進学前の私は「仕事をしていく上での基礎が欲しい」と、思い付くまま本を手にとったり資格の勉強をしたりする一方で、何も身に付いていないという焦りを常に感じていました。

全体を見通して最適な行動を選びとれるようになりたい。そのためのきちんとした基礎が欲しい。基礎があれば、どのような形にでも応用させていける。どうしたら効率的に体系だった基礎を身に付けられるかと考えた時に浮かんだのが、ビジネススクールへの進学でした。

進学先の選択には、夜間の開講でかつ通いやすい立地であることを重視しました。中でもHBSを志したのは、最も関心のある会計・財務の専門コースがあること、コースや専攻を超えた履修が可能であり、偏らない知識を得られると考えたからです。

仕事と学業の両立は多くの方が苦勞するところだと思います。私も学業が生

大橋 久美子 (現役生 修士2年)  
郵便局株式会社



活のリズムの一つになるまでは大変でした。課題やレポートに苦勞する一方、授業の内外での同級生や先輩方との交流を通じて多様な意見や幅広い視点に触れることは、その苦勞を超えて余るほど刺激的でした。自分の知識の薄さやつたない発表を恥ずかしく思うことも多いですが、HBSで過ごす時間は、毎回新たな気付きを得ることが出来る貴重な時間です。

ビジネススクールは、ただ通っただけでは何が身につくわけではなく、自分から欲しいものを求めて動かなければなりません。修士論文を書く段階に至り改めて今までの振り返ると、もっとこうすればよかったと反省することばかりです。「基礎を得た」と言うにはまだまだですが、自分の考え方や視点の抛り所となるものを得た、と自信を持って言えるように残りの期間を過ごしたいと思えます。

# 法政ビジネススクール コース共通科目

各コースが提供する高度な専門教育の理解と実践への応用のためには、ビジネス全般に関する基礎を理解することも重要です。

そこで、法政ビジネススクールでは、「コース共通科目」として、経営学、

会計学、経済学、統計学、情報科学に関する基礎科目や、産業、日本経済等に関する科目を設置しています。

## ●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
林 直嗣 教授	金融と経済の理論・実証・政策	経済学基礎
児玉 靖司 教授	データマイニング、教育工学	情報学特論
鈴木 武 教授	経済現象におけるベキ乗則、とくに都市データを用いた研究	統計データ解析、計量経済学
平田 英明 教授	日本の景気変動分析、日本の金融システム	日本経済論
豊田 敬 教授	分配問題（とくに不平等解析）	統計データ解析
入戸野 健 教授	ネットワーク技術、確率・統計的計算モデル	e-ビジネス論

## 法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について

経営学研究科  
経営学専攻

昼間コース

修士課程  
授与学位: 修士(経営学)

博士後期課程  
授与学位: 博士(経営学)

夜間コース

修士課程  
授与学位: 修士(経営学)

博士後期課程  
授与学位: 博士(経営学)

**<昼間コースのご紹介>**  
経営学専攻には、法政ビジネススクール（夜間コース）のほか、研究者養成を主な目的とした昼間コースもあります。昼間コースについて詳しくは、『法政大学大学院入学案内2013』の紹介（経営学専攻は50～53ページ）や、法政大学大学院経営学研究科のホームページ（<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/keiei/index.html>）をご覧ください。

# 法政ビジネススクール

**<博士後期課程夜間コースのご紹介>**  
法政ビジネススクール（経営学専攻夜間コース）には、MBA（経営学修士号）を取得できる修士課程のほか、同じく働きながら博士の学位を取得することが可能な「博士後期課程夜間コース」があります。博士後期課程では、博士論文の提出に向けて段階をふんで進んでいくステップ制を取り入れ、指導教員・副指導教員による個別指導と経営学専攻としての教育・学習とを組み合わせ、博士学位取得をサポートしています。

学費(年額)のご案内	修士課程	入学料 140,000 円 (入学時のみ)	授業料 530,000 円	教育充実費 60,000 円
*自校出身者は入学料が免除となります。	博士後期課程	入学料 140,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

## ■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線  
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線  
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

**法政大学大学院事務部**(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市ヶ谷町2-15-2 TEL.03-5228-0551~0552 FAX.03-5228-0555 E-mail : hgs@adm.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://www.i.hosei.ac.jp/HBS/>